

プロジェクト科目 議事録

2006年 10月 21日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名 C	学生 ID -
日時 2006年 10月 13日 (金) 15:00 ~ 18:00	
場所 寧静館501	
議題 春学期総括について	
参加者 A、B、C、D、E、G、H、T、TA	
<p>記録</p> <p>TAが、春学期で大学院を卒業したこと、また、今後は外部から能プロに協力することを報告。</p> <p>A、議事録の書き方の資料を配布。</p> <p>出典) 樋口 裕一『良い会議。悪い会議×』 海竜社 2006年 山田 ズーニー『伝わる、揺さぶる! 文章を書く』 PHP研究所 2001年</p> <p>★ mixiコミュ「能プロ☆2006」について</p> <p>Aがプロジェクトメンバー専用のコミュニティをmixi上に開設した。</p> <p>次週以降の議事録・活動報告書は、mixi上の掲示板に各自が貼付し、確認することにした。</p> <p>Uploadの仕方は、次回の講義時にTがメンバーに説明するとのこと。</p> <p>↓</p> <p>URL: http://www1.doshisha.ac.jp/index.html</p> <p>アカウントID: 00000000</p> <p>パスワード: 00000000</p> <p>★ 総括について</p> <p>T: 春学期の客観的なデータを私たちはいくつ持っているのか? それを考慮してみるのもよい。(アンケートの回収率等)</p> <p>TA: 地域で行われる能楽教室に来ていた児童の反応と、同志社小学校の児童の反応の比較検討をすることもできる。</p>	

C、G、Hが総括を配布。他のメンバーは各自の考えた総括に基づいて発言し、全体での話し合いが始まる。

●展示

良い点

- 能の知識を学んでもらうために必要であり、質問時間を設けることにより強いインパクトを与えることができた。
- 紙芝居と展示を関連づけることで、児童に能の印象をより強く与えることができた。
- 展示では、本物の装束・面を用いることにより、視覚に訴えることができた。
- 写真パネルの手配・作成はWS直前になったが、実際の舞台での使われ方や能楽師が装束を身につけたときの雰囲気などを児童がイメージしやすかった。

悪い点

- 教室の内装がそのままであった（もっと雰囲気を出せたのではないか）。
- 展示の仕方がありきたりであった（構想を練ることができたのではないか）。

T A：面白能楽館では、着付けの仕方を実演しているが、子供の参加者は少なかった。今回は実演ではなくパネルという形であったが、児童に見てもらえたことはよかったのではないか。

実際に見学にいったA、Eを中心に、面白能楽館と能プロWSそれぞれの特徴がいくつか挙げられた。

以下に表でまとめる。

面白能楽館		能プロWS
装束一式を人形に着せて展示	←→	紙芝居ブースとの関連で装束を展示
さまざまな演目を扱う	←→	ストーリーを統一する
異なるイベントを並行して実施	←→	すべてに参加することができる
一人一人が好きなように動く	←→	ツアー形式で動く

●紙芝居

良い点

- 絵を4枚にすることにより、児童には起承転結が非常にわかりやすいものとなった。
- 外部の人の協力を得られた（絵画サークル：児童に分かりやすい紙芝居を描いてくれた、紙芝居読み手：迫真の演技で児童の関心を引き寄せることができた）。
- （移動形式の紙芝居について）立って見ることで、集中力を持続させ、飽きさせないようにできた。

(これを受けて、T：ツアー形式が独特のものなのかを調べてみてはどうか)

悪い点

- 展示をする装束の色と紙芝居に登場する装束の色を統一することができなかった。(※しかし流派により使われる装束の色はもともと異なるので、とりたてて悪いとは言えないのでは、という意見もある)
- 展示ブースと紙芝居との連携が甘かった。

●体験ブース

良い点

- 『賀茂（加茂）』にした理由を明確にすることができる。(舞・謡・太鼓の3つがそろそろ。地元である京都の演目であるので、児童にとってなじみやすく、先生方にも理解してもらいやすい。擬音語が使われているので興味を持ちやすい、耳に残りやすい。扇を開かずに舞うなど)
- 詞章の長さを能楽師と交渉して決めることができた。
- それぞれの能楽師の教え方の違いが顕著に表れていたことの発見。

(T A：太鼓方は普通プロにしか教えない。小学生に教えたのは初めてなのではないか?)

悪い点

- 太鼓の練習時間が足りなかった。
- 能楽師との直接交渉が出来なかった。

【囃子方（太鼓）、金剛流能楽師b、観世流能楽師b】

4限が終了したため、G、退室。

●事前学習

良い点

- ストーリーの補足、児童が流儀を知るきっかけになった(事前学習プリントより)。
- 児童が自分の体験する役割を知り、具体的にイメージすることができた(VTR『賀茂（加茂）』より)。

悪い点(課題点)

- 書式は見やすいものであったか?(詞章プリントより)
- 流儀により書式を変えたことが結果としてはどうであったのか?(同上)

●浴衣

良い点

- 袖の長さ（幅）が展示されている長絹^{ちようけん}と異なる。
- 非日常感がある。
- 動きにくさの体験ができる。
- 発表の際に緊張感を促す効果がある。

●保護者

良い点

- 児童に緊張感を与える。
- 保護者が子どもの変化を感じることができる。

●リハーサル

良い点

- 1回のみであるという緊張感・ハラハラ感。
- リハーサルできなかった太鼓担当の児童が一生懸命になって能プロメンバーと太鼓の練習をした。

悪い点

- 時間が十分に取れなかった。

●発表会

良い点

- 他者に見てもらうことによる緊張感がある。
- 他のブースの児童がどんな体験をしたのかを知ることができ、お互いに興味をわかせることができた。
- 4回に分けて行い、他のグループの発表を見られるようにすることで自分がしていたパートを客観的立場でみることができた。

悪い点

- 十分に練習のできなかった児童が目立った。

T、退室。

●企画段階

能楽師からのアドバイス（プロからの視点で、時間・人数・場所について）と、小学校側からのアドバイス（教育者からの視点で、目的・効果について）があったが、能プロはこのアドバイスにそのまま従っていたのではないかと、それでは私たちの貫き通してきた

もの（＝私たちのオリジナリティー）が損なわれてしまっているのではないか？という意見が出た。

論点：能プロのオリジナリティーとは何か。

- ①外部から意見を取り入れることによって「能プロ独自の企画」が揺らいでしまったのではないか、外部との話し合いを経ても変わらずに持ち続けたものこそ能プロのオリジナリティーではないか
- ②外部との話し合いはWS企画を「小学生のための」ものにするために行ったのであり、何度も練り直した上で最終的に完成したWS企画こそが能プロの成果であり、オリジナルのプログラムなのではないか

という2つの立場に基づく認識の違いがあり、それぞれの立場によって捕らえ方が異なったため根底にあるとおもわれるこの「オリジナリティーとは何か」というテーマについて話し合った。

結論：この2つの立場の違いは、外部との話し合いでアドバイスを受けた点について、ただ取り入れたのではなく、それまでの企画を改良していくという形で進めていたということを認識していたかどうかによる違いである

→春学期はブースごとの企画の完成までの過程を他のブース担当者は見ることが出来なかったため、このような感じ方の違いが出たのではないかということになった。各担当者間の情報共有（企画会議の結果だけではなく、経緯も含め）が必要ということになった。

担当者の進行状況を、m i x i などを使って伝達するといった解決策も話し合った。

《次回の講義までに》

・総括まとめ（担当：D）

・メンバーは17日21：15までにDに次の項目の感想・意味づけなどを提出（PCMLにて）

- ①WS当日（7月26日）の運営の仕方について
- ②同志社小学校で授業参観をしたことについて